

民進党は 自分たちの手で 改憲案を

元防衛副大臣
長島昭久



ながしま・あきひさ 衆議院議員(民進党)。昭和37(1962)年生まれ。慶應大学大学院修士課程修了(憲法学)。防衛政務官、首相補佐官などを歴任。当選5回。

あるべき「保守」の姿とは、エドモンド・バークや小泉信三が指摘したように、大衆の熱狂に迎合するのではなく、積み重ねられてきた伝統的規範や慣習や知恵をいかしながら、「秩序ある進歩」を目指すことだと思えます。日本の場合は、そこに国家の基盤たる皇室を綿々と受け継いでいくという精神も加わるでしょう。

故に私が尊敬する保守の政治家は「秩序ある進歩」を地で行く改革を進めた中曽根康弘元首相です。首相在任中に靖国参拝をやめたことと批判する保守派もいますが、たばこ、国鉄、電電公社などの巨大組織を民営化させた功績は高く評価されるべきです。また、中曽根さんは戦後の軽武装、経済優先の「対米依存体質」を変えました。日本の安全保障上の役割を拡大することで日米同盟を進化させた決断は非常に優れていたと思えます。

その中曽根さんですら突破できなかった集団的自衛権行使の壁は、安倍政権が安全保障関連法を成立させたことよって突破しました。安倍さんが「脱・対米依存」の意志を中曽根さんから受け継いだのです。民進党の多くの議員は共産党と一緒に関連法を否定していますが、私は安全保障上の大きな宿題に区切りをつけた努力を極めてポジティブに評価しています。

とはいえ、アベノミクスは規制改革などに切り込みが甘く、及第点は与えられません。また、安倍外交に関しても、トランプ米大統領誕生によってかなり変調をきたしています。トランプ新大統領の掲げる「米国第一」外交は、人権や民主主義という普遍的な価値と、経済的な実利や地域紛争の収束など当面の目的とを、平然と両天秤にかけて来る可能性があります。たとえば、ロシアやシリアの独裁

政権とも大胆に手を組む選択肢を排除しません。それに対し、「法の支配や自由を守る」ことが大切だ」などと原則論を叫ぶだけでは、トランプ以後の世界で主要な大国として指導力を発揮することは難しい。力の均衡という冷厳な国際社会の現実を踏まえて、より複雑な戦略的「連立方程式」を解く覚悟を持たねばならないでしょう。ただ、外交や安全保障に与党も野党もありません。野党が政府の足を引っ張るばかりでは、世界と対峙する日本の国力を毀損することになり、そこを他国に付け込まれる危険がある。与野党が内政や経済政策などでしのぎを削るのは当然ですが、外交・安保の基本方針は党派を超えて共有すべきです。

私が保守の観点で重視しているテーマは皇統の安寧と憲法改正です。いずれも与野党が建設的に議論のテーブルにつくべき議題で

共産党の国会議員はよく勉強しているし、正義感も強い。ただ、共産主義の実験は失敗に終わっているし、もはや論ずるに値しません。民進党が国家観や理念が大きく異なる共産党と政権を選択する衆議院選挙で協力することになれば、有権者に対し不誠実です。保守のホープとして期待しているのは我が党の北神圭朗衆議院議員です。知る人ぞ知る政治家ですが、東西の古典に明るく、胆力に恵まれ、確固たる保守の歴史観を持つ国際的な教養人。私は「日本政治の秘密兵器」と呼んでいます。習近平氏、プーチン氏、トランプ氏らの前に出ても引けを取らない政治家だと思えますね。他党なら落ち着きのある加藤勝信一億総活躍担当相でしょうか。派手さはないが、保守は安定感がないとダメ。実は「ポスト安倍」の有力な一人じゃないかなと思っています。